

シンポジウム 1

「炎症性腸疾患へのカプセル内視鏡の果たすべき役割-診断と治療より」

司会 山本 博徳（自治医科大学内科学講座消化器内科学部門）
松本 主之（岩手医科大学消化器内科）

カプセル内視鏡 (CE) を用いると、消化管のあらゆる部位が観察可能となった。このことにより、クローン病や潰瘍性大腸炎などの炎症性腸疾患 (IBD) における位置付けも向上してきた。ただし、CE を必須の検査法とする意見は必ずしも多くない。そこで IBD 初回診断における診断能、鑑別困難例における位置付け、粘膜治癒の評価法などについて広く議論してみたい。将来への提言となる発表を期待している。奮って応募頂きたい。